

誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて —聴覚障がい者の視点から、意識調査を通して—

愛媛県立松山聾学校 池田理奈

・ 作品の要旨

今回の研究は、誰もが暮らしやすい社会の実現に向け、障がい者と健常者の間にある壁を少しでも解消することを目的としています。障がいについて、正しい理解を広げるために、意識調査とその結果を基にした啓発パンフレットの作成を行いました。そして、共により良い社会を築くために大切なことについて考察を行いました。

・ 苦労した点など感想

聴覚障がい者が抱える課題や思いをパンフレットに載せることで、より具体的に理解してもらえるように工夫しました。その際、聾者と健聴者、両者の立場に立って考えることに苦労しました。しかし、今まで知ることがなかった健聴者の聴覚障がい者に対する率直な意見や考えを知ることができ、嬉しかったです。

・ 受賞の喜びコメント

いまだに受賞したことが信じられません。ただ、コロナの影響で、作成したパンフレットの配布が、まだかなっていないので、今後、これを用いて聴覚障がいに対する理解度が高まるか検証を続けていきたいと思っています。今回の受賞を自信として、地域社会に貢献できる人になりたいと思っています。



審査員からのコメント

本研究はアンケート調査を通じて聴覚障がい者と健聴者との相互の認識のズレを明らかにし、そのズレの解消への取組が両者間にある社会的障壁を克服する可能性を示したものである。まず本研究は聴覚障がい者である応募者が日常的に感じている切実な問題を起点とするセルフアドボカシーとして理解することができ、その問題意識は個人的経験を起点としながらも、日本社会に通底する普遍性を持つ。また、本研究の方法と結論は決して研究的とは言えないものの、膨大な1次データを通じて得られた成果であることから、今後の発展が大いに期待されるものである。

